

平成27年6月19日

# 農作物生育・技術情報3号

日高農業改良普及センター日高西部支所  
JAびらとり JA門別町

## 1 水稲生育状況（6月15日現在）

品 種	生 育 状 況		
	項 目	27年	平 年
ななつぼし	草丈 (cm)	25.8	27.6
	葉数 (葉)	6.2	6.1
	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	125.0	135.1
	分けつ始 遅速日数	6月10日 ±0	6月10日 -

6月上旬は低温になったことで、茎数は少ないものの生育は平年並みです。

風が冷たいと感じても日射しが強い場合は、水田の水温は気温を上回っていますので、水の保温効果を利用して初期生育を高めましょう。

### 技 術 対 策

- ・ 茎数を確保するため、好天時は3cm～4cmの浅水管理を行い、株もとの地温を高め分けつを促す。ただし、田面は露出させないようにし、低温や強風時は水位を高めて苗を保護する。入水は気温と水温の差が少ない夜間から早朝に行い、日中は止水にして水温の上昇を図る。
- ・ ワキがひどい水田は、好天時に水田の中干し(3～4日)を行う。ただ生育が悪いところは水の入れ替えにとどめる。

## 2 主要野菜の生育状況

作 物 名	生 育 状 況	技 術 対 策
トマト ハウス桃太郎 桃太郎ギフト 桃太郎8	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 今月に入り気温が高めに経過し、促成・半促成作型の生育は順調であるが、窒素過多によるすじ腐れ果の発生や夜温が低いため裂果が発生している。灰色かび病の発生はやや少ない。</li><li>・ 夏秋作型の定植作業は、ほぼ順調に経過している。</li><li>・ 4段花房以降の上位葉で葉先枯れ症状が発生している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 茎葉の過繁茂は、灰色かび病・葉かび病などを誘発するので、ベットの内側の葉を中心に摘葉し、適宜薬剤散布を行う。</li><li>・ すじ腐れ果の発生圃場では、窒素控えめの追肥や日光不足とならないよう玉だしを行う。</li><li>・ 草勢が衰えないように、必要に応じて追肥・かん水・葉面散布等を行う。</li></ul>
ハウス軟白ねぎ 北の匠、 木イト等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ アザミウマ類、ハモグリバエ類、タマネギバエが一部に見られる。</li><li>・ 葉先枯れ症状が一部に見られる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ハウス周辺の除草を行う。</li><li>・ 早めの薬剤防除を行う。</li><li>・ 生育量に応じたかん水を行う。</li></ul>
アスパラガス (ハウス立茎) スーパーウェルカム	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 灰色かび病が一部のハウスで見られる。</li><li>・ ジュウソクビガハムシの食害が一部で見られる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 樹を軽くゆすり、老化花弁を落とす。ハウス内湿度を高めないう換気に努める。</li><li>・ 早期発見、早期防除を行う</li><li>・ ハウス周辺の除草を行う。</li></ul>

\* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。この抵抗性は抵抗性のやや強いタイプⅢです。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

### 3 牧草生育状況（6月15日現在）

作物名	生育状況				生育期節 (平年値) 出穂期	適要
	項目	27年	平年	遅速 日数		
牧草 (チモシー)	一番草 草丈	93.9cm	95.1cm	+6	6/8 (6/14)	5月下旬～6月上旬の高温により、出穂が早まった。

多くのほ場でチモシーが出穂し、刈り取り適期となっています。

牧草栄養価を重視し最終の刈り取り時期が大幅に遅れないように注意してください。

### 4 畑作

#### (1) ばれいしょ

- 疫病 疫病は着蕾期以降から発生が見られ、降雨による多湿で蔓延しやすくなります。予防防除に努めましょう。

6月下旬 グリーンペンコゼブ水和剤(400～600倍) (収穫7日前まで)

- 培土 本培土は萌芽後21～25日後、茎長25cm頃を目安に着蕾期までに行いましょう。生育の早い株に合わせ行いましょう。

#### (2) てん菜 詳しくは「てん菜栽培技術情報」をご覧ください。

- 根腐病 高温多湿で多発します。予防防除に努めてください。
- ヨトウガ ほ場をよく観察して、虫や食痕を確認してから薬剤を散布しましょう。

#### (3) 秋まき小麦

- 赤かび病 1回目防除の7～10日後に、ベフトップジンFLで防除しましょう。
- アブラムシ類

出穂10日後に1穂当たり7～11頭位（寄生穂率45%以上）寄生している場合は、防除が必要です。

#### (4) 大豆、小豆

定期的の中耕作業を行い、初期生育の促進に努めてください。

### 5 6～8月は「農薬危害防止月間」です！

- ◎病虫害・雑草の防除に使用する薬剤は、農林水産省が許可した薬剤だけです。

\* 容器に「農林水産省登録〇〇号」の記載があるので、必ず確認しましょう。

- ◎使い慣れた農薬であっても必ずラベルを確認しましょう。

・適用作物 ・使用時期（収穫前日数） ・希釈倍数、量  
・成分ごとの使用回数

- ◎農薬の飛散防止に努めましょう。

